様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２４２８
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2014～2018
課題番号：２６２９３４７４

研究課題名（和文）小児がん看護の標準化を目指した「ガイドライン」の臨床活用の検討とケアモデルの開発

研究課題名（英文）A Study on Clinical Application of "The Guidelines" and Development of Care Model Aiming at Standardization of Nursing Care for Children with Cancer

研究代表者
内田　雅代（Uchida, Masayo）

東都医療大学・幕張ヒューマンケア学部・教授

研究者番号：７０１２５９３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、小児がん看護の標準化を目指し、先行研究で開発し検討してきた「小児がん看護ケアガイドライン」の臨床活用の検討とケアモデルの開発をすることである。
　小児がん看護に携わる看護師を対象とした全国調査を行い、ガイドラインの検証を行った。ガイドラインに示した46項目の重要性に関する看護師の認識は高く、ほとんどの項目が支持された。実施の程度に関しては、項目により違いがみられ、ケアの困難感や課題を示していると考えられた。さらに自由記述の分析や入院環境調査を基に、現状の小児がん看護の課題に即したガイドラインの改訂及びケアモデルを記述した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、小児がんの子どもと家族のQOLの改善を目指す日本小児がん看護学会の研究活動の一環として位置づけ、活動を継続してきた。小児がん治療やがん対策推進基本計画等の動向を踏まえ、看護実践に関するケアの指針として、臨床現場の看護師が活用しやすいように、具体的でわかりやすく、ケアモデルの記述も含め「小児がん看護ケアガイドライン2018」へと改訂した。日本全国どこにいても治療中及び治療後の小児がんの子どもと家族への標準的ケアとして展開されることを願い、日本小児がん看護学会会員および全国の小児がん治療施設に送付した。2019年秋には、日本小児がん看護学会ホームページにも掲載される予定である。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this research is to verify the clinical use of "Childhood cancer nursing care guidelines" developed in the previous research and to develop a care model, aiming at standardization of childhood cancer nursing.
　We conducted a national survey to evaluate guidelines for nurses involved in pediatric cancer nursing. The nurses' perceptions of the importance of the 46 items of care described in the guidelines was high, and most items were supported. The nurses' perceptions of the degree of care implementation differed depending on the item, and were considered to indicate difficulties in care and problems. Based on these results, we revised the guidelines and described the care model in line with the current issues of childhood cancer nursing.

研究分野：小児看護学　小児がん看護学

キーワード：小児がん　子ども　家族　ケアガイドライン　ケアモデル　看護の標準化

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

小児がんの 5 年生存率は 70-80%となったが、子どもや家族は治療開始から治療中、治療後にも様々な苦痛や制限を受け、身体的・心理社会的な問題を抱えている。小児がん患者は年間約 2500 人の発症と少ないものの診療施設は全国 200 施設と多く、小児がん医療や看護の経験の蓄積や専門性は確保しにくい。平成 24 年の第 2 期がん対策推進基本計画では、「小児がん」が新たな重点項目となり治療施設の集約化（小児がん拠点病院の指定）とともに緩和ケアを含む集学的治療が政策課題として示された。しかし看護においては、「小児看護やがん看護に関する専門的な知識及び技能を有する専門看護師などの配置が望ましい」と記載されているのみであり、小児がんの子どもや家族が安心してケアを受けられる条件整備としては十分とは言えない。

日本小児がん看護学会では、小児がんの子どものケアに携わる看護師が様々なケアにおいて困難を感じていること、ケアの施設間格差があること等に対して、「小児がん看護ケアガイドライン（以下「ガイドライン」）2008」を作成し、その後、「ガイドライン」の各章に関連した「病気・病状の説明」「症状マネジメント」に関する研修会の開催や、看護師が困難を感じている終末期ケアに関する詳細な調査を行い、小児がん看護に求められるケア内容の検討を踏まえた「ガイドライン 2012」へと改訂し、日本小児がん看護学会ホームページにも掲載し臨床現場への周知・普及を図ってきた。

２．研究の目的

本研究は、小児がん看護の標準化を目指し、先行研究で開発した「小児がん看護ケアガイドライン」の臨床活用の検討及び「ガイドライン」の検証とさらなる充実のための検討および小児がんの患者・家族に特徴的な看護問題に関連したケアモデルの開発を行うことを目的とする。

３．研究の方法

1）小児がんの子どもと家族に関するケア及びケア環境に関する文献検討及び国際小児がん学会参加と合わせて小児がん看護を推進している海外の病院・施設の視察を通して、わが国の小児がん看護の実情を検討し、課題とされる内容について研究者間で協議した。また、がん対策推進基本計画などの国や都道府県の動きに関する情報収集をしながら、求められる看護ケアとその実践を担う人材育成についての検討を行った。

2）わが国の小児がん看護の現状と課題を明らかにするために、①病棟師長を対象にした小児がんの子どもの病棟（病院全体も一部含む）のケア環境に焦点をあてた調査、②病棟看護師を対象にした、小児がん看護の 46 項目のケア内容についての重要度・実践度の認識および小児がん看護の実践上の困難、課題、取り組みに関する自由記述など、ケアの内容に関して全国 108 施設の各 2 病棟への調査を実施した

分析は、量的データに関しては SPSS ver.21 を用いた統計解析により、質的データに関しては研究者間の協議による検討を重ね、分析した。これらの結果を、毎年の日本小児がん看護学会学術集会および国際小児がん学会にて発表し、参加者と意見交換した。また、看護の実践に困難を感じている項目として挙がった、「きょうだい支援」に関しては、学術集会にてワークショップを企画し、きょうだい支援に携わっている支援グループや病棟看護師からの講演と参加者の意見交換を行った。

3）上記の結果を研究者間で協議し、「小児がん看護ケアガイドライン 2018」に求められている内容を再検討し、「ガイドライン 2012」の各章を基に内容を充実させることと、新たな章立てとして、「抗がん剤曝露対策」、「AYA 世代のがん患者へのケア」「ケアモデル」を追加し、「ガイドライン 2018」へと改訂した。

４．研究成果

「小児がん看護ケアガイドライン 2018」の作成の基礎とした一連の研究成果に関して、上記学術集会等にて発表し、参加者とともに小児がん看護の現状と課題を共有した。また、研究結果の考察からは教育支援の必要性が示唆されること、参加者からも教育支援プログラムへの期待の声が挙がっている。日本小児がん看護学会は、「小児がん看護の専門性」を持つ看護師の育成に関する教育支援プログラムに着手しており、「ガイドライン 2018」は、その貴重な資料として役立てられた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　0 件）

〔学会発表〕（計　9 件）

竹内幸江、内田雅代、白井史、小原美江、平田美佳、竹之内直子、野中淳子、小川純子、森美智子（2016）：小児がんの子どもの入院環境、第 14 回日本小児がん看護学会学術集会、東京.

内田雅代、白井史、小原美江、平田美佳、竹之内直子、足立美紀、高橋百合子、竹内幸江（2016）小児がんの子どもと家族のケアに関する看護師の認識ーケア 46 項目の実践の頻度と重要性

の認識ー、第 14 回日本小児がん看護学会学術集会、東京.
Masayo Uchida, Fumi Shirai, Yoshie Ohara, Naoko Takenouchi, Mika Hirata, Miki Adachi, Yuriko Takahashi, Sachie Takeuchi (2016)：Evaluation of Nursing Care Guidelines for Children with Cancer and Their Families in Japan、48th Congress of the international society of pediatric oncology、Dublin.
平田美佳、竹之内直子、小原美江、白井史、内田雅代（2017)：小児がんの子どもと家族のケアに携わる看護師の捉えたケア上の困難（第 1 報）～病状の説明と信頼関係の構築～、第 15 回日本小児がん看護学会学術集会、松山市.
竹之内直子、平田美佳、小原美江、白井史、内田雅代（2017)：小児がんの子どもと家族のケアに携わる看護師の捉えたケア上の困難（第 2 報）～終末期ケアに焦点を当てて～、第 15 回日本小児がん看護学会学術集会、松山市.
M.Uchida, F.Shirai, Y.Ohara, N.Takenouchi, M.Hirata, M.Adachi, Y.Takahashi, S.Takeuchi, J.Nonaka J.Ogawa, M. Mori (2017)：How Hospital Environment Influences Children's Cancer Nursing in Japan、49th Congress of the international society of pediatric oncology, Washington, D. C.
内田雅代、竹之内直子、平田美佳、白井史、小原美江(2018): 小児がん看護ケアガイドラインの評価と改訂のプロセス, 第 16 回日本小児がん看護学会学術集会, 京都市.
Naoko Takenouchi, Mika Hirata, Masayo Uchida, Fumi shirai, Yoshie Ohara (2018)：The Factors of the Difficulties of Nurses Who are Taking of Children with Cancer, 50th Congress of the international society of pediatric oncology, Kyoto.
Mika Hirata, Naoko Takenouchi, Masayo Uchida, Fumi shirai, Yoshie Ohara (2018)：Challenges and Difficulties in Transdisciplinary Team Approach Encountered by Nurses Involved in Care of Children with Cancer, 50th Congress of the international society of pediatric oncology, Kyoto.

〔図書〕（計　1　件）
内田雅代（著者代表)、有田直子、石川福江、井上玲子、岩崎美和、小川純子、小原美江、上別府圭子、河俣あゆみ、小林京子、込山洋美、坂田友、笹木忍、佐藤伊織、柴田映子、白井史、塩飽仁、杉澤亜紀子、副島尭史、竹内幸江、竹之内直子、田村恵美、富岡晶子、中谷扶美、野中淳子、濱田米紀、平田美佳、前田留美、松岡真里（2019)：小児がん看護ケアガイドライン 2018―小児がんの子どもの QOL の向上を目指した看護ケアのためにー、特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：竹内　幸江（2014 年度～2018 年度）
ローマ字氏名：　Takeuchi Sachie
所属研究機関名：長野県看護大学
部局名：看護学部
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：00311902

研究分担者氏名：　高橋　百合子（2014 年度～2018 年度）
ローマ字氏名：　Takahashi Yuriko
所属研究機関名：長野県看護大学
部局名：看護学部
職名：講師
研究者番号（8 桁）：00438178

研究分担者氏名：　足立　美紀（2014 年度～2018 年度）
ローマ字氏名：　Adachi Miki
所属研究機関名：長野県看護大学
部局名：看護学部
職名：助教
研究者番号（8 桁）：10457905

研究分担者氏名：齋藤　博子（2014 年度）
ローマ字氏名：　Saito Hiroko
所属研究機関名：長野県看護大学
部局名：看護学部
職名：助教
研究者番号（8 桁）：20722177

研究分担者氏名：　白井史（2015 年度～2018 年度）
ローマ字氏名：　Shirai Fumi
所属研究機関名：長野県看護大学
部局名：看護学部
職名：助教
研究者番号（8 桁）：30420699

(2)研究協力者

研究協力者氏名：竹之内　直子
ローマ字氏名：　Takenouchi Naoko

研究協力者氏名：平田　美佳
ローマ字氏名：　Hirata Mika

研究協力者氏名：小原　美江

ローマ字氏名：Ohara Yoshie

研究協力者氏名：野中　淳子
ローマ字氏名： Nonaka Junko

研究協力者氏名：小川　純子
ローマ字氏名： Ogawa Junko

研究協力者氏名：森　美智子
ローマ字氏名： Mori Michiko

研究協力者氏名：石川　福江
ローマ字氏名： ishikawa Fukue

研究協力者氏名：上別府圭子
ローマ字氏名： Kamibeppu Kieko

研究協力者氏名：塩飽　仁
ローマ字氏名： Shiwaku zin

研究協力者氏名：富岡晶子
ローマ字氏名： Tomioka Akiko

研究協力者氏名：井上玲子
ローマ字氏名： Inoue Reiko

研究協力者氏名：田村　恵美
ローマ字氏名： Tamura Megumi

研究協力者氏名：小林京子
ローマ字氏名： Kobayashi kyoko

研究協力者氏名：込山洋美
ローマ字氏名： Komiyama Hiromi
研究協力者氏名：佐藤　伊織
ローマ字氏名： Sato Iori

研究協力者氏名：副島　尭史
ローマ字氏名： Soezima Takashi

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。